

令和6年度小松市立丸内中学校 学校評価2

	目標・具体的取り組み	取組の状況（中間・8月提出）	取組の成果と課題（年度末・3月提出）
生徒指導	〈発達支持的生徒指導の充実〉 ・生徒指導の4つの視点を生かした授業を行うことを全教員が意識する。 ・豊かな人間性、よりよい人間関係を築く能力を子供たちに育成する場の設定を工夫する。 ・互いに認め合える集団を育成するために、安心して発言できる親和的な学級づくりを行う。 ・安全な登下校のための交通ルールの順守とマナーの定着を図る。	・生徒会を中心に、学級フルーツバスケット・縦割りドッジボール・ありがとうBOXなどを行った。生徒主体でよりよい人間関係を築く工夫を行った。 ・全教員が意図的に生徒の活躍の場を設定し、褒める場を用意している。 ・安心して発言できる親和的な学級を強化するために、QJアンケートの分析をして学年会で協議し、親和的な学級を目指す。また、気になる生徒への対応策も学年会で共有し、2学期から対応できるようにする。（夏休み中） ・毎週水曜とテスト期間中の下校指導を全教員で行った。交通マナーは依然として課題があるため、引き続き指導していく必要がある。	・行事では縦割りの活動を取り入れているため、子どもたち主体で活動することができて認められる場面を多く設定できた。また、生徒委員会を中心に横のつながりの活動（すくろく、雑巾リレー、フリースローなど）も多く設定できた。 ・研究と連携して生徒指導の4つの視点をいかした授業を行うことを夏の職員会議では提案できたが、もう少し短いスパンで確認を行っていただけたら良かった。 ・冬休みの学年会でQJ分析と3学期に向けての対応策の共有をする。その後職員会で全教員で共通理解をして3学期につなげる。 ・下校指導は教員で協力して実施できた。 ・交通マナーに関しては、PTA健全育成委員会にご協力いただきながら生徒に指導を行うことができた。まだ課題は残るが、引き続き声掛けをしていく。
道徳教育	〈自主・自律の精神、互いの考えを尊重し、思いやる心を育む〉 ・互いの考えを尊重し、互いに聴き合う授業を目指す。 ・自己を振り返り、向き合うことを通して、自らを律する精神を高める。（道徳ノートの活用） ・生徒が自分とは異なる考え方を尊重したり、多面的・多角的な見方へと考えを発展させたりできるように「丸中トーク」の効果的な実践を図る。	・学校全体として、落ち着いた雰囲気の中で授業を行うことが出来ており、聴き合うも生徒が意識してできている。 ・道徳ノートを活用し、毎時間振り返りができている。 ・1年生は発言が多く、他者との交流から自分の考えを広めることができている。2、3年生は道徳で自分の考えを発表することに苦手意識を持っている生徒も見られた。 ・発言する生徒が一部の生徒に偏っているという学級もみられる。本校で継続してきた「丸中トーク」について今一度教員が共通理解を図り、活用して、話す場面を増やしていきたい。	・学校全体で振り返りを書く習慣が定着しているので、毎時間、道徳ノートに振り返りを書くことができている。 ・課題である他者との交流の場面では発言を引き出すために引き続き、「丸中トーク」の活用やタブレット端末を活用するなど、工夫したい。 ・道徳の時間に考えたことを掲示物として活用している学年があった。来年度も道徳を通じて、学校全体であたかひ雰囲気づくりができるとうい。 ・今年度は各先生が作成した教材の保存の呼びかけをしなかったが、来年度教科書の改定があるため、授業準備で作成した教材を次年度以降活用できるよう教材の保存を年度始めに提案できるとよい。
G I G A	〈教員のICT活用スキルを高め、より効果的な活用を目指す〉 ・若手教員の実践を校内全体に広げて共有する機会を創出する。 ・活用を苦手とする教員に個別に操作等について助言する機会を増やす。 ・オンライン授業が実施できる環境づくりに努める。（Microsoft Teamsの活用） ・Qubenaを全学年で効果的に活用し、基礎学力の定着をはかる。	・教員全員がICTをつつがなく利用できるように適宜伝達・動作確認などその教員のニーズに合わせて助言を行い、SKYmenuやTeamsの活用を図っている。 ・Microsoft Teamsの各クラスでの利用（ホームページ機能、伝達、チャネルなど）を図りながらも、よりよいICT活用の実践に向けて、実践と検証を繰り返している。 ・Qubenaは週2～3日朝学習の時間に5教科を割り振り、テストや各生徒の実態に合わせて、実践を行っている。また長期休業中には、ワークブックを設定し、3学年ともに取り組ませている。	・教員の中でのICT活用の事例を研究部と協力しながら、増やしていきつつ、適宜伝達講習や動作確認など相談に対応することで不自由のないICT活用に取り組んでいる。 ・SkyMenu・Microsoft Teamsの活用は、授業だけでなく、授業外（専門委員会・朝学習・朝礼など）での活用を目指していきたいながら、学習用端末のルール・マナーの定着を図りながらも、生徒の活用頻度を高めている。 △学習用端末のルール・マナーの定着の促進、充電保管庫への挿入、保管の面で様々な課題が生じている。 △Qubenaは週に2～3回朝学習・持ち帰り学習での週末の活用をしているが、今後は活用頻度・実施方法の検討が必要。一よりよいタブレット端末での学習に取り組むたい。
人材育成	〈若手教員の指導力向上〉 ・校内研修と教科部会を運動させて、定期的に設定することで、若手教員の指導力向上を目指す。 ・若プロの日常的な研修体制を充実させ、学校全体でOJTを推進する。 ・若プロコーディネーターが若手教員に個別にアドバイスすることで日常的に相談しやすい環境をつくる。	・若プロの機会を利用して、先輩教員からこれまでの経験を踏まえて若手教員へ助言を行ったり、若手教員同士が今抱えている悩みを共有する場を設けたりしたこと、一人の教員の問題ではなく、学校全体の問題として考えることができた。その他にも、日常的に授業づくりの方法や生徒指導の在り方など、多くのことを先輩教員に積極的に聴きに行く姿も見られ、多方面においてスキル向上に向けて努力していた。	・夏休みや冬休みの時間のあるときに若プロを開催し、外部から講師を招聘したり、先輩教員からの助言を聴く機会を設けたりすることで、若手教員の指導力向上に努めることができた。若手教員からも、助言を求めに行く姿が見られ、気軽に相談しやすい良い関係づくりができている。 ・個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に向けての授業づくりの一例として、研究主任が提案授業を行い、共通理解を図ることができた。 ・若手教員の方から積極的に先輩教員の授業を参観し、学びを深め、自身の授業の中にも取り入れようとする姿が見られた。
学校関係者評価	・増加傾向にある不登校生徒について丁寧な対応をとっていることは大切である。引きこもりにつながるなど社会的な問題でもあるので、将来的に人と関わるができるようになってほしい。対応が大切である反面、多くの不登校傾向生徒に教員が細かく関われば関わるほど、業務としての負担が増加しているのではないとも感じる。市教委の支援や補助があると助かるのではない。 ・学習用端末の活用について、昨年度は課題があったことがあったが、今年度伸びていることに驚いた。今後、ICTを活用していく力は不可欠であるので、学校で使えるようになることは良いことである。 ・職場体験がコロナ後に再度実施されるようになったのは良いことだ。キャリア教育の一貫として、今後も職業人に学ぶ会や職場体験は続けていくと良い。 ・GIGAスクール構想が進んでいく中で、道徳などの人間性を育む教育がさらに重要になっていくと思う。機械と向き合うだけでなく、人と向き合いコミュニケーション能力を向上させる力を今後も育んでほしい。		